



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

今年全国を巡回している「特別展 ポンペイ」。東京、京都、宮城、福岡（現在開催中）の美術館や博物館で開催され、NHKでも特集されていたので、それを見た方もいるに違いない。火山の爆発によって一瞬にして火山灰に埋もれてしまった古代都市ポンペイは、私たち日本人の心をも捉えて離さない。西暦79年、ヴェスヴィオ火山の大噴火による火砕流に呑み込まれていったローマ帝国の地方都市ポンペイ。その発掘調査は、18世紀から続けられ、跡地からは、噴火の直前まで、変わらず続けられていた人々の生活の痕跡が発見された。火山灰で覆われていた地下からは、数々の日用品や住居跡が。またフレスコ画の美しい壁画や焼いたままのパン、水道やトイレに至るまでその跡が残されている。まさにその日は突然やってきた。そこに暮らす人々は普段と変わらず、飲んだり食べたり、めとったり嫁いだりしていたのだ。著者ヨハネが、アジア州にある教会にあてて書き送った『黙示（隠されてい）たものの啓示、覆いを取り

除くこと）録』は、西暦96年ごろの、ローマ皇帝ドミティアヌス帝の頃に書かれたものであると言われている。「ヨハネが書き送った人々は、混乱した時代を生きていたし、多くの者は、彼らの時代が危機で充満していることを理解していた（中略）90年代始めの飢饉では犠牲者が出た。大地自

瞑想

全能者である神、主よ。  
あなたの業は偉大で、驚くべきもの。  
諸国の民の王よ、  
あなたの道は正しく、かつ真実です。

黙示15:3

主幹牧師 榎本 恵

らにとつてまさに現実になる出来事のリアリティーを持つて迫ってきた。「最後の七つの災い」も「大淫婦の裁き」も、「バビロンの滅亡」も、彼らには、皆もうすぐにでも起こる現実の終末の時として理解されていたのだ。しかし、残念ながら、それは来なかった。そして、いつしか彼らは待つことになら

おののか、もしくは、どうせこれも、今までと同じように、結局は過ぎていくに違いないと高を括り、食べたり飲んだりしようではないかとうそぶくのか、二つに一つの選択肢の間を生きている。しかし、終末とはいつそれが起こるのかと言うことよりも、そこで何が起こるのかという本質こそが問題なのだ。神学者ブルトマンは、イエスキリストこそが終末論的出来事であり、「あらゆる瞬間は終末論的瞬間になる可能性を持っており、キリスト者の信仰においてこの可能性は実現されている」（『歴史と終末論』より）と断言する。終末とは、主の十字架と復活によって、古き世が終焉し、私たちが「古き人」から「新しい人」に変えられた、その出来事に他ならないのだ。友よ、私たちは、あのポンペイの人々と同じように、今日の夕食が最期の食事となるかも知れない時を生きている。しかし、たとえその日が訪れようとも、また訪れなくとも、私たちはいつも、新しい人として、この驚くべき真実の正しい道を生きていこうよ。



## 早天の光の奇跡



貝出 久美子

わたしたち早天祈禱会の大事な仲間、アシラムの友、尾崎恵さんが召された。

けれど、早天の祈りはきかれた。

主治医はイエス様と決めて、末期がんを生きていた尾崎さんに、神様が奇跡を起こされた。

尾崎さんは、末期がんにによる、様々な体の不調と戦いながら自宅で過ごしていた。おな



早天祈禱会後のラインやりとりから、急に会うことに！画面を飛び出し、感激のリアル初対面！淡路島にて。6月4日。

かの中には8センチ近い腫瘍が肝臓の上でんとのっかり、その下にも4センチの腫瘍があり、肺も胃も腸も圧迫していた。それでも、最後まであきらめないで戦った。戦う姿を家族に見せたいのだと、苦しい中でも笑顔で祈り、与えられた治療には感謝して何度もトライし、そして、早天祈禱会では、わたしたちのためにも祈ってくれた。

しかし、ある時から胆汁がたまると嘔吐するようになった。それは激しくて、急に水道の蛇口をひねったように来る。洗面器半分にもなるときもある。気を付けていても幾たびもシーツが汚染さ

れ、家族に洗濯を頼む。その生活に疲れた彼女は、自宅療養の限界を感じてホスピスに入院することを決めた。

ホスピスに行く。もう、家に帰れないかもしれない。家が好きだと知っていたから胸は痛んだ。しかし、神様は共におられた。

ホスピスにはいつて、彼女はすぐに元気になった。ステロイドなどの点滴が功を奏した。主の御計らい。

Zoom早天礼拝ではみるみる笑顔になり、わたしたちは声を出して喜んだ。そして、そこから神様の奇跡が始まる。

「何かね、この部屋が違う場所のような、不思議な感じがあるの」と彼女は言った。ふうん。元気になったからかなと思った。

ある日、ひとりの看護師が彼女の部屋に来た。そこはキリスト教

の病院ではない。けれど、尾崎さんが、朝、Zoomで早天礼拝をしているのを知っている。クリスチャンであるのも知っている。尾崎さんが明るく変えられていくのを目の当たりにしたその看護師は、何がそうさせているのかと聞いた。尾崎さんは証をした。するとその彼女は、その場でイエス・キリストを受け入れて信仰告白をした。

神様のお働きに尾崎さんは驚いた。苦しみに耐えかねてホスピスにきたけれど、そこには神様の目的があったのだ。

そして、その後しばらくして、今度は、女医が来た。女医は、尾崎さんの置いてあった聖書をパラパラとめくった。そして、急に泣き出した。尾崎さんも驚いたが、本人も驚いていた。

「わたし、今、特に大

きな悩みもない。困っていることもない。どうしたんだろう。自分でもわからない」とその女医は言った。

二人の女性をキリストに出会わせるために、用いられた尾崎さんは、ホスピスで元気になってホスピスから退院した。

そして、家で食事をつくったり、買い物にも行ったり、日常を与えられた。

早天の祈りの仲間はみんなうれしかった。けれど、あつという間に症状は悪化し、風に乗っていくように、尾崎さんは天に帰っていった。

8月から早天のZoomの画面に尾崎さんがいない。でも、「早天の祈りはきかれるよ。早天を大事にして」と尾崎さんはずっと参加している。

（早天祈禱会・Zoom聖書教室の友（徳島聖書キリスト集会

# シメオン黙想の家に宿泊感謝

夏の良き日、るつ子姉の友人ご夫妻がご来訪。シメオン黙想の家にご宿泊されました。後日届いた感謝のお便りから一部ご紹介いたします。

松田 高志

此の度は、お心の溢れる歓待をして頂き、大変楽しい豊かな思いをさせて頂き、本当に有難うございました。「コヘレトの言葉」の通り、「近江八幡に寄せて頂く時あり：神のなさることはすべて時宜にならなうて美しい」と言う他ありませんでした。

中略

又、アシラムムーブメントの新しい聖地とも言える、最近修復完成したばかりのアンナ祈りの家、シメオン

黙想の家に滞在させて頂いて、リトリートの清々しい心豊かな気分ひたらせて頂いてこれも驚きでした。

その上、完成直後のラビリンス・聖なる道を朝早く黙想しつつ歩ませてもらいました。思いがけずアシラムの真(神)髓のようなものを体験することが出来ました。恥ずかしなからそんなことは余り考えていなかったの不思議なことでした。

シメオン黙想の家の旧佐藤久勝邸は、佐藤氏の夢とアイデアが一杯詰まった自邸だったとのこと、しかも神戸女学院大学(KC)のヴォーリズ建築の夢のような学舎といわば「血縁関係」にあるとのこと、これには驚きしました。KC関係者必見の

建物です。よくぞアシラムの皆様が購入し、徹底的に掃除し、修復して下さったこと、感謝に耐えません。

中略

御母堂様にもお会い出来、思っていた以上に元気でした。以上でお元気でしつかりしておられ、何よりと思いました。

最後に、まだまだ暑くなりそうですが、どうかお大切に元気に過ごして下さい。(神戸女学院大学 名誉教授)



建築、絵画、民芸等、芸術的な話で盛り上がる豊かな時。

2022年3月26日に天に帰った妻、小林佳子が願っていた歌集「であい」第三集が完成しました。生前のお交わりと「であい」に感謝しています。佳子の思い出と共にページをめくっていただけでは幸いです。

2022年9月 小林 茂男

\*インドなるアシラムメッカ興さるる ちいろば牧師近江の里に

\*魂の糧も日にと論す師の願ひ「アシラム」知りて根づけり

\*「アシラム」に聖句の恵み分かち合ひし友の声聴く「朝の祈り」



→昨春秋、オリブの里アシラム後、小林ご夫妻お訪ねして。東海バプテスト教会の加山師と。翌日は初の教会アシラム。佳子姉の熱き祈りにより。

## 後宮松代姉の深いひと言(礼拝後)

保郎さんがな、今治行く時、私にな、「神様を畏れなさい、人は畏れず愛しなさい。」と。私は言われた通りに、おいで下さる方は皆神様からのおお客様と手厚くおもてなしました。てるちゃんもよう手伝ってくれたよ。(マツテル弁当) そんなことをじーっと見て下さるのが、全知全能の神様です。本当に保郎さんはいいこと教えてくれました。



↑主日礼拝後、帰宅。お楽しみの昼食。長女とも姉が用意して下さるが、気持ちは今も現役!

## 小西洋子姉 みもとに・・・(甲西伝道所小西清信牧師夫人)

多くの方の祈りに包まれつつ、8月20日天に召されました。センター早天祈祷会の祈りは今も続けられています。ご家族のため(特に小西師のため・・・)

シメオン黙想の家、を喜び、働きに期待され教会債についても快く賛同、まだ修復途中のところ真っ先に駆けつけて下さいました。これからも見守っていて下さいませ。





へアシ  
シ  
ラム誌感謝より  
朝ごとの一人早天をつづけて恵まれています。

戸井雄二

瞬きの詩人

水野源三の世界 47

三浦綾子記念文学館特別研究員  
森下 辰衛

亡き父 1972.8.9 (no.8)

父にも  
どうすることも出来ない  
我が悲しみには  
ひと言も  
ふれず  
ただ縁側に  
腰をおろし  
つぎつぎに  
花火を  
してくれた  
遠い夏の夜



カキツバタ、コケモモ  
梶原道子師画(網走教会)

花火の  
美しさに  
ひとときだけ  
悲しみが  
忘れられた  
遠い夏の夜

この詩は、坂城栄光教会に所蔵されている「元帳8番」に記載された詩集未収録の作品です。夏を迎え八月になる度に、源三さんの胸には花火とお父さんの思い出が鮮やかによみがえるのでしょうか。

この詩が書かれた1972年の五年前に父水野寛さんは亡くなっていますが、源三さんの胸の記憶の中のお父さんは、その腰だけでなく、背中や肩、手や眼差しまでが見えるようです。

この詩と同時期に読まれた短歌が、同じ「元帳8番」にあります。

秋が立つ縁側に腰をおろしたる  
薬売り我が亡父を語りぬ

薬売りは源三さんのお父さんを、どんな風に語ったのでしょうか。毎年、おそらく富山辺りか

ら高い山々を越えて訪ねてくる薬売りは、顧客の家庭のことも分かっていたのでしょうか。薬売りであるがゆえに、共に痛みつつ悩みを聴く仕事でもあったでしょうから。薬売りがこの国に果たしていた役割も思わずにはられません。坂城の水野家には、重い障害を負って良くならない息子がいて、その息子を変わずに、慈しみ続けている父親がいる。そして、年ごとに少しずつ老いてゆく父の姿と、その優しさと真実とを、尊いものとして、薬売りも年ごとに心に刻んでいたのでしょうか。薬売りが父と同じ縁側に腰をおろしているのにも心ひかれます。

「父にも／どうすることも出来ない／我が悲しみ」という重さから、この詩は始まっています。父というものは、家族の問題を何としてでも解決しようと働くものです。けれど、それをどうすることもできなかった父は、息子の悲しみに触れることはしない代わりに、心ではそれを全部背負おうとしているように感じます。

何も言わない父。ただ、花火を、つぎつぎに花火をしてくれた父。惜しむことなく、惜しむことなく、すべてを与えるように、臥したまま見ることしか出来ない息子のために、その癒しがたい悲しみの胸を慰めるために、花火の美しさで満たそうとしてくれた父。

それは、遠い夏の夜の事です。一瞬で消える花火と同じく、悲しみを忘れさせてくれたその美しさもひとときのもの。今はありません。でも心には父の深い慈しみが残っている。何年経っても、否、年経るごとに、鮮やかになる父の優しさがある。そして、それは、もう一人の父である方を思わせるものでもあったように思えます。「神さまにもどうにもできない悲しみなどというものはない」と、強い信仰者は叫ぶかも知れません。でも、神ご自身は、この父のように寄り添い、何も言わずに惜しげなく花火に火をつけ続けてくださる方ではないだろうか？と、この詩を読むと思えてしまいます。

\*偶数月の第3木曜日の午前と夜、水野源三さんの詩を読む会をZOOMでしています。どうぞご参加ください。  
(お申し込みは、shiokaripass@gmail.com 森下)



へ誕生日カード感謝のお便りから  
祈り伝道しております。榎本保郎先生の「一日一章」を愛読いたしております。

渡辺あき



「猪瀬和子姉のひと言 9月10日病室にて」 「恵先生、主の祈りを・・・！」と小さなお声ではっきりと。 (このアシラム誌完成直前にご召天の報あり。9月20日。詳しくは次号に)

# 台湾愛修会の皆様、平安！②

## 榎本恵師によるビデオメッセージ

1971年の中華民国の国連脱退や国民党の戒厳令下の中にあつた台湾は、まさに明日がどうなるのかわからない、そんな時代を生きてこられました。

そしてこの21世紀の今も、変わらない厳しい社会情勢の中にあることと思ひます。しかし、この50年を、

みなさんが、主に望みをおき、主によって力を得、勇気を持って主に従い行かれたことは、まさに「世に勝つておられる」主の偉いなる



初期の台湾愛修会。保郎師前列左2人目。中央に蘇天明牧師。台湾愛修会に尽くして下さい。

証であると思つています。

私は皆様方のこの苦難の中にあつてなお信仰を持ち続ける姿を、心より尊敬するものの一人であります。そしてその信仰を、私たち日本のキリスト者も学ばなければならぬと思つてい

るものです。 私たちアシラムセンターと台湾愛修会は、この混迷を極める世界の中にあつて、共に手を携へ、次の50年を目指し、歩んでいくものとなるうではありませんか。この世では苦難の連続です。明日のことは誰にもわかりません。しかし、私たちは 知つてい

るので、主は既に世に打ち勝つてい

ることを、そして私たちが、その主の約束された平和を実現するものとして、この世にあることを。 来年には、日本の新潟で、「国際正義平和アシラム」を行う計画をしております。その時には、是非台湾



加古川祈りの家。9月。3ヶ月毎。次の12月10日を待ち望みつつ。広野祈りの家から、藤田姉初ご参加！病床の猪瀬姉、きっと笑顔に。

の皆様と共に集い、共に祈り、共に言葉に聞き、そして声高らかに賛美しようではありませんか。

「明日はどんな日か私は知らない。晴れか、嵐か曇りになるか。しかし、私は心配しない。明日を守られるイエスがいますから。明日はどんな日かわからないけど、明日を守られるイエスがおられる」と。

(終)



9月センター聖書教室にて。加藤和子姉(赤飯・プリン手作り持参)と和子母(30日に97歳!)W和子姉妹に感謝。



ようこそ！樋口家の皆様！(福岡アシラムの友)



阪神ミニアシラム。神戸聖愛教会にて。猪瀬姉他皆様の祈り積み重ねお借りでき感謝！

### あとがき

今月もアシラム誌お読みいただき感謝です。アンケート葉書の返信もたくさんの方からいただき感謝でした。皆様からの心のもった感想や意見がいただけたことが、本当によかったです。アシラム誌が、読まれる方々の信仰生活にとって、良きものとなるようにこれからも精進してまいります。お返事のいただけではない方もおられますし、何よりも、ご住所お名前が書いておられず、中止のご要望に答えられず困つてい

恵師の 手を握り：



中止、又はオンラインに変更もあり。  
ホームページ、電話等でご確認下さい。  
直前の変更の場合あり!

10月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】  
0748-33-4030  
アシュラムセンター

4(火)	Zoom聖書教室 (AM10:30、PM7:30)
7(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
8(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
10(月)	箴言に学ぶ会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
10(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
11(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
19(火)	みんなのカフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
21(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
23日	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00) (4週目に変更)
24(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
25(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
25(火)	しみじみの会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
26(火)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
11/4(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)

10月のアシュラムなど

3(月)	第46回 山陰アシュラム 森山/バイブルキャンプ	0867-66-2076
4(火)	奉仕者 山陰アシュラムのメンバー	遠藤誠一師
17(月)	第46回 新潟アシュラム「ホテルさぶ〜ん」	0250-23-2697
18(火)	奉仕者 榎本 恵師	吉澤昭男師
20(木)	2022年 修道場アシュラム⑧	0748-33-4030
22(土)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
20(木)	第47回 加太アシュラム 加太国休休暇村	072-445-8235
22(土)	奉仕者 黒田 朔師	西川武兄
27(木)	第10回 日光オーリーブの里アシュラム	0748-33-4030
28(金)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
29(土)	第2回 東海バプテスト教会一日アシュラム	029-219-6672
	奉仕者 榎本 恵師	加山彰一師

11月のアシュラム予定

2(火)	第47回 京浜アシュラム	048-789-1325
4(金)	奉仕者 岩波 久一師	加々美要師
17(木)	2022年 修道場アシュラム⑨	0748-33-4030
19(土)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
28(月)	教役者のためのリトリートアシュラム	0748-33-4030
12/2(金)	奉仕者 乞うご期待!	アシュラムセンター

第48回 年頭アシュラム

会場：琵琶湖コンファレンスセンター

1/19(木)  
~  
21(土)

詳しいご案内は次号で!  
皆様のご参加、お待ちしております!



アンケートハガキ 御返送感謝!  
御氏名・御住所お忘れなく!

榎本空 講演会 11月5日(土) 13:30~  
関西セミナーハウス (075-711-2117)

リモート  
参加可

みことば

ノースカロライナ大学院生  
Zoom聖書と学ぶ会  
榎本 空

多くの預言者や正しい人たちは、あなた方が見ているものを見たかったが、見る事ができず、あなた方が聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。

マタイ13章17節

やりたいこと、やるべきことを余すことなくやり尽くすには、人の一生はいかにも短い。

やりたいことは無限にあっても、できることはその3割と言っていたのは、確か細野晴臣だったが、そうだとするならば私たちはきっと、見れなかったこと、聞けなかったことへの無念を抱えて、この世を去っていく。それが生きるということの真実なのかも知れない。生きるとは、神の後ろ姿を拝むことなのだから。

ニーナ・シモンは、自由になるってどんな気分なのか知っていたら、と歌った。「私を縛っているあらゆる鎖を、打ち砕くことができたなら。私たちが隔てるすべての壁を、取り払うことができたなら」。

もちろんこれらの言葉を担保しているのは、米国の黒人たちの奴隷体験であり、その後の彼らを縛りつけた社会構造である。ここで鎖とは、字義通りの鉛の鎖なのだ。

彼らは、2000年前のイエスに連なる人々がそうだったように、そうした祖先の無念を脈々と受け継ぐ人々だった。

その上でニーナ・シモンは同じ曲で歌う。「随分遅すぎたけれど、もう一度新しく、はじめてみよう」。



←おじい(阿波根昌鴻氏)とわびあいの里資料館前広場にて。二子は宝とよく言われ。